

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	4-(2)-ウ	アジア・太平洋地域の安定と平和に資する平和人権協力外交の展開	施策	① 国内外に向けた平和の発信と次世代への継承
			施策の小項目名	—
主な取組	平和祈念資料館事業			
対応する主な課題	②戦後72年が過ぎ、沖縄戦の悲惨な体験の記憶が薄れていくなかで、「命どう宝」の平和を希求する沖縄の心を次世代に継承し、どのように国内外に発信していくかが課題である。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
沖縄戦の実相・歴史的教訓を次の世代に正しく継承し、平和を希求する「沖縄のこころ」を国内外に発信することを目的に様々な企画展に取り組んでいる。「子ども・プロセス企画展」や「児童・生徒の平和メッセージ展」、専門的な特別企画展等を年間を通して取り組み、来館者増につなげる。		477千人 総入館者数	479千人 総入館者数	481千人 総入館者数	483千人 総入館者数	485千人 総入館者数
		特別企画展等の開催(6~7回/年)、教育現場と連携した取組み、歴史的教訓を次世代に引き継ぐ人材の育成等				
		戦争体験証言の多言語化(70人分)	アジアにおける戦争体験国の若者との戦争教訓の理解と継承			
実施主体	県					
担当部課【連絡先】	子ども生活福祉部女性力・平和推進課		【098-866-2500】		戦中・戦後戦争体験証言の多言語化(50人分)及びWeb公開	

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位: 千円)

予算事業名	平和祈念資料館展示活動事業						R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画
	主な財源	実施方法	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算見込額	当初予算額	
県単等	直接実施	29,741	28,380	24,480	26,075	25,164	27,253	県単等	OR2年度: 特別展、児童・生徒の平和メッセージ展、子ども・プロセス企画展、ギャラリー展、戦の語り部功労者パネル展等を開催した。 OR3年度: 特別展、児童・生徒の平和メッセージ展、子ども・プロセス企画展、ギャラリー展、ミニ企画展、夏休み子ども向け企画、特別講座等を開催予定。

様式1(主な取組)

予算事業名 平和祈念資料館管理運営事業							R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
主な財源	実施方法	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR2年度：平和祈念資料館の適切な管理運営のため、受付・警備・清掃・機械設備の保守点検等の外部委託及び施設・設備の修繕等を行った。	
県単等	直接実施	92,909	95,838	106,171	110,717	128,463	2,205	県単等	OR3年度：引き続き、平和祈念資料館の適切な管理運営のため、受付・警備・清掃・機械設備の保守点検等の外部委託及び施設・設備の修繕等を行う。	
予算事業名 沖縄平和啓発プロモーション事業（戦後の戦争体験者証言映像収録）							R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
主な財源	実施方法	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR2年度：30人の戦争体験者の戦後沖縄を中心とした証言映像を収録・編集し、7カ国語に翻訳した。	
一括交付金（ソフト）	委託	—	—	—	—	13,695	23,342	一括交付金（ソフト）	OR3年度：収録した証言映像を編集（7カ国多言語化）し、WEB公開する。	
予算事業名 「平和への思い」発信・交流・継承事業							R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
主な財源	実施方法	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR2年度：新型コロナウイルス感染拡大により、沖縄での共同学習を中止し、オンラインによる共同学習を実施した。	
一括交付金（ソフト）	委託	—	—	—	21,963	25,635	26,455	一括交付金（ソフト）	OR3年度：アジアの戦争経験国の若者と沖縄、広島、長崎の若者が共同学習（参加7カ国〈地域〉、10日間）・シンポジウムの開催を実施する。	
予算事業名 沖縄県平和祈念資料館学芸員人材育成事業							R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
主な財源	実施方法	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR2年度：—	
県単等	直接実施	—	—	—	—	—	2,205	県単等	OR3年度：正規雇用学芸員の配置（採用）に伴う人材育成で、専門性を活かした調査研究や企画展等の内容の充実を図る。	

様式1(主な取組)

活動指標名	平和祈念資料館の総入館者数(常設展示室を含む全ての展示室等への入館者総数)千人				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	475	445	432	435	65	485	13.4%	192,957	大幅遅れ	<p>特別展、児童・平和メッセージ展(4会場)、子ども・プロセス企画展(年4回)、ギャラリー展(年4回)、戦の語り部パネル展(2会場)等の企画展を開催した。</p> <p>戦後75年事業としての「戦の語り部功労者感謝状贈呈式及びパネル展」は、沖縄戦の実相と教訓の次世代への継承に寄与する。</p>
活動指標名	特別企画展等開催数				R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	12	18	16	17	15	19	78.9%			
活動指標名					R2年度					<p>進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大の影響により、個人・団体ともに来館者数は大幅に減少した。</p> <p>また、特別企画展等開催数は、4会場での実施が中止となったが、それ以外は規模縮小や日程変更等の対応で実施することができた。</p> <p>本取組により、戦争を体験した「戦の語り部」の方々の思いに触れ、県民が改めて沖縄戦を考える機会と平和への思いを新たにする契機となり、沖縄戦の実相と教訓の次世代への継承に寄与した。</p>
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和2年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄戦の実相を伝える移動展や企画展等の開催及び展示内容の多言語化による外国人の誘客も図る。 ・学習キッドの貸出等を通して県外学校の修学旅行等の誘致を行うとともに、県内学校に平和講話や出前講座等、当資料館の積極的な活用を働きかける。 ・各種企画展開催にあたり、マスコミへの取材依頼や様々な広告媒体を活用した広報活動を行う。 ・ウェブを活用した多言語化証言映像その他の情報の発信等の取組みを行う。 						<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で、中止や規模縮小と当初計画の変更が余儀なくされたが、日程変更等の対応で「特別展」や「戦の語り部パネル展」、新たに「大人のための平和学習」を開催し、平和発信・誘客を図った。 ・コロナ禍で、平和学習キッド等の資料貸出による平和教育のサポートや県ガイドラインに基づく感染対策を徹底した中で、平和講話や常設展示室観覧等の受入を可能な限り行った。 ・各種企画展等の開催にあたっては、マスコミへの取材依頼や様々な広告媒体を活用して広報活動を行った。 ・「戦後の戦争体験者証言映像収録事業」で証言映像の収録・翻訳(7カ国)を行った。令和3年度に多言語化編集し、WEB公開する。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

- ・入館者数の減少については、新型コロナウイルス感染拡大に伴う臨時休館の実施や3密を避けるため、常設展示室への入室者数を制限を実施したところである。
- ・今後は平和学習キッド等の資料貸出や県内学校への出前講座等の県内外学校と連携した当資料館の積極的な活用、県民等に向けた平和学習の定期開催や証言映像移動展の開催、ウェブ等を活用した情報の発信等についても取組みの強化を検討する必要がある。

○外部環境の変化

- ・令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、修学旅行を取り止める学校も多く、団体・個人ともに入館者数が大幅に減少したところである。
- ・当館の入館者数は県外修学旅行生の動向に大きく左右され、修学旅行先の多様化が減少傾向の要因と考えている。
- ・外国人の入館者は増加傾向にある。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・企画展の更なる充実とともに当館の活動内容等を積極的にPRし、来館者増を図る必要がある。
- ・教育機関や観光関係機関と積極的に連携を図り、県外修学旅行生や県内児童・生徒の更なる誘致を図る必要がある。
- ・急増傾向にある外国人への対応を強化する必要がある。
- ・来館者を待つだけでなく、当資料館の積極的な活用策や移動展の開催等情報の発信を検討する必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

- ・正規学芸員の専門性を活かした企画展の開催や県民等向け学習会の定期開催を通して誘客を図る。
- ・資料貸出による平和教育のサポートを通して修学旅行等の誘致を行い、県内学校に平和講話や出前講座等、当館の積極的な活用を働きかける。
- ・ウェブによる多言語化証言映像の発信や展示内容の多言語化による外国人の誘客も図る。
- ・ウェブを活用した情報の発信等の取組みやマスコミへの取材依頼や様々な広告媒体を活用した広報活動を行う。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	4-(2)-ウ	アジア・太平洋地域の安定と平和に資する平和人権協力外交の展開	施策	① 国内外に向けた平和の発信と次世代への継承
			施策の小項目名	—
主な取組	平和の礎			
対応する主な課題	①沖縄県では、太平洋戦争で一般住民を巻き込む「鉄の暴風」と呼ばれる凄惨な地上戦が行われ、この戦闘で失われた人命は、一般住民を含め20万人余に及び、貴重な文化遺産等が破壊され、沖縄は文字どおり焦土と化した。この沖縄戦の歴史的教訓を次代に伝え、平和を願う沖縄のここを世界に発信し、平和協力外交地域として世界平和に貢献することが求められている。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
平和を願う心を沖縄内外に発信するため、平和の礎について沖縄戦等により死亡したと新たに認定された戦没者名を追加刻銘する。						
追加刻銘の実施						
実施主体	県					
担当部課【連絡先】	子ども生活福祉部女性力・平和推進課 【098-866-2500】					

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名 平和の礎事業							R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
主な財源	実施方法	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算見込額	当初予算額	主な財源	OR2年度： 令和2年度追加刻銘の実施、刻銘情報管理システムの更改、設備修繕等	
県単等	直接実施	3,464	2,745	3,488	23,624	22,370	7,744	県単等	OR3年度： 令和3年度追加刻銘の実施、施設・設備等修繕、システム機器リース	

予算事業名							R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
主な財源	実施方法	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算見込額	当初予算額	主な財源	OR2年度：	
		—	—	—	—	—	—		OR3年度：	

様式1(主な取組)

活動指標名	「平和の礎」追加刻銘者数				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	84	54	58	42	30	—	100.0%	22,370	順調	令和2年度は、令和元年度に新たに沖縄戦等により死亡したと認定された戦没者30名について追加刻銘を実施した。
活動指標名	—				R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
	—	—	—	—	—	—				令和2年度は、令和元年度に新たに沖縄戦等により死亡したと認定された戦没者30名について追加刻銘を実施した。平和の礎が建設された平成7年以降の刻銘者総数は「241,593名」となり、計画は順調し推進されている。追加刻銘の進捗により、平和を希求する沖縄の心を県内外へ発進することができた。
活動指標名	—				R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	—	—				
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和2年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> 報道機関を活用した周知（具体例：追加刻銘者数発表、刻銘作業の取材依頼を引き続き行う）。 戦没者の立証にかかる遺族の負担が軽減されるよう、平和の礎へ追加刻銘を希望する遺族へ、適切な説明を行う（具体例：戦没者の戸籍簿が存在しない場合は、戦没者の当時の状況を知っている人に証明書を書いて沖縄戦で戦没したことを証言してもらうように説明する等）。 						<ul style="list-style-type: none"> 報道機関を活用した周知を行った（具体例：追加刻銘者数発表、刻銘作業の取材依頼）。 平和の礎への追加刻銘を希望する遺族からの電話問い合わせに対しては、口頭で回答する以外に説明文を送付し、手続き方法をわかりやすく伝えるようにしている。また直接来課する遺族に対しては、追加刻銘に対する思いを聞いたうえで書類の書き方を丁寧に説明している。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・主に沖縄県HP上の掲示で周知を行っているため、インターネットを使用するのが難しい方への周知不足が考えられる。

○外部環境の変化

・戦争体験者の高齢化、記憶の風化等の要因により、新たな追加刻銘者の認定が難しくなっている。
・沖縄戦の戦没者であることの立証資料の収集等、遺族の負担が大きくなってきている。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・追加刻銘等に係る手続きについて、遺族の負担を軽減する必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・報道機関を活用した周知 (具体例: 追加刻銘者数発表、刻銘作業の取材依頼を引き続き行う)。

・戦没者の立証にかかる遺族の負担が軽減されるよう、平和の礎へ追加刻銘を希望する遺族へ、適切な説明を行う (具体例: 戦没者の戸籍簿が存在しない場合は、戦没者の当時の状況を知っている人に証明書を書いて沖縄戦で戦没したことを証言してもらうように説明する等)。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	4-(2)-ウ	アジア・太平洋地域の安定と平和に資する平和人権協力外交の展開	施策	① 国内外に向けた平和の発信と次世代への継承
			施策の小項目名	—
主な取組	沖縄平和賞、ちゅらうちなー草の根平和貢献賞及び平和発信の強化等			
対応する主な課題	①沖縄県では、太平洋戦争で一般住民を巻き込む「鉄の暴風」と呼ばれる凄惨な地上戦が行われ、この戦闘で失われた人命は、一般住民を含め20万人余に及び、貴重な文化遺産等が破壊され、沖縄は文字どおり焦土と化した。この沖縄戦の歴史的教訓を次代に伝え、平和を願う沖縄のこころを世界に発信し、平和協力外交地域として世界平和に貢献することが求められている。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
アジア太平洋地域の平和の構築・維持に貢献した個人・団体を顕彰し、その活動を促進する。また、県内で平和に関する社会貢献活動に取り組む個人・団体・学校等を表彰し、県民の平和意識の醸成を図る。沖縄戦の実相の次世代への継承及び平和を希求する「沖縄のこころ」の県内外への発信に取り組む。		第9回沖縄平和賞受賞候補者推薦依頼・詳細調査	第9回沖縄平和賞の授与(1件)	第1回ちゅらうちなー草の根平和貢献賞の授与(1件)	第10回沖縄平和賞の授与(1件)、語り部功労者表彰(1件)	第2回ちゅらうちなー草の根平和貢献賞の授与(1件)
		受賞団体への支援 県内外へ受賞団体の活動状況を発信(県HPへの掲載、パネル展等の開催) 募金の協力依頼等				
実施主体	県、沖縄平和賞委員会					
担当部課【連絡先】	子ども生活福祉部女性力・平和推進課 【098-866-2500】					
		沖縄平和啓発プロモーション			第32軍司令部壕保存・公開の検討	

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名	平和創造・発信事業						R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画
	主な財源	実施方法	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算見込額	当初予算額	
県単等	負担	17,026	8,392	17,963	7,677	25,894	8,209	県単等	OR2年度：第10回沖縄平和賞授賞式及び沖縄平和賞シンポジウム、高校大学生向けのワークショップを開催し、パネル展や支援募金に係る広報等を実施した。 OR3年度：第11回沖縄平和賞受賞候補者推薦依頼及び詳細調査を行うほか、前年度に続きパネル展や支援募金を実施する。

様式1(主な取組)

予算事業名 沖縄平和啓発プロモーション事業							R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画
主な財源	実施方法	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	
一括交付 金(ソフト)	委託	—	—	—	—	39,268	54,643	一括交付 金(ソフト)	OR2年度：ワークショップを県内7回、県外1回開催し、シンポジウムを県外で1回開催する。戦後証言収録を30名分行った。 OR3年度：ワークショップを県内6回、県外3回開催し、シンポジウムを県外で1回開催する。30名分の戦後証言編集・WEB公開を行う。
予算事業名 ちゅうらうちな一草の根平和貢献賞表彰事業							R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画
主な財源	実施方法	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	
県単等	委託	—	—	—	—	7,467	4,835	県単等	OR2年度：沖縄戦の語り部活動に取り組んできた戦争体験者に対し、知事から感謝状を贈呈した。 OR3年度：第2回ちゅうらうちな一草の根平和貢献賞表彰式を開催する。

様式1(主な取組)

活動指標名	沖縄平和賞の授与及び授賞式の開催				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	1件	—	1件	—	1件	1件	100.0%	72,629	順調	<p>第10回沖縄平和賞の受賞者を選定し、授賞式において沖縄平和賞を授与した。また、授賞式に関連した沖縄平和賞シンポジウムや次世代ワークショップを開催し、沖縄平和賞支援募金に係る広報活動を行った。</p>
活動指標名	ちゅうちな一草の根平和貢献賞の授与				R2年度					
	—	—	—	6件	—	—	100.0%			<p>進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果</p> <p>計画どおり、第10回沖縄平和賞授賞式を令和2年10月に開催し、受賞者に平和賞を授与した。</p> <p>アジアを中心として地球規模の貧困や環境問題に取り組む日本のNGOの活動を長年にわたって支援し、国内外に対する平和の発信に寄与した。</p> <p>第1回ちゅうちな一草の根平和貢献賞の活動をまとめた動画を制作し、同賞の認知度向上を目的とした特別番組を放送した。</p> <p>シンポジウムを1回、ワークショップを8回開催した。</p>
活動指標名	「ぴーすふるシンポジウム」開催				R2年度					
	—	—	—	2件	1件	1件	100.0%			
活動指標名	「ぴーすふるワークショップ」開催				R2年度					
	—	—	—	7件	8件	9件	89.0%			
活動指標名	「ぴーすふるメッセンジャー」募集				R2年度					
	—	—	—	10件	11件	10件	100.0%			

様式1(主な取組)

(2)これまでの改善案の反映状況

令和2年度の取組改善案	反映状況
<ul style="list-style-type: none">・これまでの情報発信・広報事業に加え、広報強化月間（OKINAWA PEACE PRIZE 月間）を設けるなど工夫を凝らし、沖縄平和賞の認知度の向上に努めるとともに、支援募金者の拡大に取り組む。・歴代受賞者を活用したシンポジウムや県外向けの広報活動等の新たな取組を実施することで、沖縄平和賞の趣旨や本県の平和への取り組みを全国的に周知し、協力者・理解者の増に取り組む。	<ul style="list-style-type: none">・OKINAWA PEACE PRIZE月間として、歴代受賞者とちゅうちな一草の根平和貢献賞受賞者による沖縄平和賞シンポジウムを開催し、その模様は県内放送局で放映され、沖縄平和賞の認知度向上に取り組んだ。・第10回受賞者紹介映像を制作するとともに、授賞式の周知広報に係るテレビコマーシャルを放映した。また、SNS（Facebook、Instagram、Google）を活用してバナー広告を掲載し、県ホームページの動画に誘導して情報の拡散を図った。



3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点（内部要因、外部環境の変化）

○内部要因

- ・受賞候補者の推薦件数をさらに増加させるため、推薦人データベースの運用を改善していく必要がある。
- ・沖縄平和賞の運営費全般において、県負担金の占める割合が高い。

○外部環境の変化

- ・個人情報保護法の観点から、推薦人データベースの適切な運用が求められている。
- ・沖縄平和賞のさらなる認知度向上に努める必要がある。

(2) 改善余地の検証（取組の効果の更なる向上の視点）

- ・推薦人データベースの推薦人について、適宜見直しを図る。
- ・沖縄平和賞の認知度向上について、周知広報の方法やシンポジウムの企画に取り組む。
- ・支援募金を継続するとともに、自主財源確保の方法を模索する。



4 取組の改善案 (Action)

- ・これまでの情報発信・広報事業に加え、歴代受賞者によるシンポジウム等の取組を実施することで、沖縄平和賞の趣旨や本県の平和への取組を全国に発信し、同賞のさらなる認知度向上に努めるとともに、支援募金者の拡大に取り組む。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	4-(2)-ウ	アジア・太平洋地域の安定と平和に資する平和人権協力外交の展開	施策	① 国内外に向けた平和の発信と次世代への継承
			施策の小項目名	—
主な取組	沖縄平和学習アーカイブ運営事業			
対応する主な課題	①沖縄県では、太平洋戦争で一般住民を巻き込む「鉄の暴風」と呼ばれる凄惨な地上戦が行われ、この戦闘で失われた人命は、一般住民を含め20万人余に及び、貴重な文化遺産等が破壊され、沖縄は文字どおり焦土と化した。この沖縄戦の歴史的教訓を次代に伝え、平和を願う沖縄のこころを世界に発信し、平和協力外交地域として世界平和に貢献することが求められている。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
戦争を知らない世代に対して、沖縄戦の歴史的教訓の情報を発信するため、これまで収集した沖縄戦体験者の証言等をデジタルコンテンツとして整備し、「沖縄平和学習アーカイブ」サイトにより、インターネットを通して発信する。						
		インターネットを通して沖縄戦体験者の証言映像等を発信				
実施主体	県					
担当部課【連絡先】	子ども生活福祉部女性力・平和推進課		【098-866-2500】			

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名 沖縄平和学習アーカイブ運営事業							R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
主な財源	実施方法	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算見込額	当初予算額	主な財源	OR2年度： 沖縄戦体験者の証言等を本サイトを通して配信した。	
県単等	委託	1,461	1,461	921	1,071	978	902	県単等	OR3年度： 沖縄戦体験者の証言等を本サイトを通して発信する。平和学習等への活用を促進し、沖縄戦の歴史的教訓を次世代へ継承するため、広報を行う。	
予算事業名 —							R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
主な財源	実施方法	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算見込額	当初予算額	主な財源	OR2年度：	
		—	—	—	—	—	—		OR3年度：	

様式1(主な取組)

活動指標名	沖縄平和学習アーカイブ運営事業				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	配信の実施	—	100.0%	978	順調	令和2年度は、年間を通してコンテンツ配信のためのサイトの公開を行った。
活動指標名	—				R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
	—	—	—	—	—	—				年間を通じてサイトの公開を行っており、達成割合は年間12ヶ月のうち公開12ヶ月間、12/12=100%とした。
活動指標名	—				R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	—	—				
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和2年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> 県のホームページ等を通して引き続き情報発信を行うとともに、関係機関と連携し、教員や平和ガイド等向けに活用法等を掲載したパンフレット等を配布し、アクセス数向上を図る。 関係機関と連携を図ることで、国内外に本サイトの周知や利用を促進する。 						<ul style="list-style-type: none"> 県（女性力・平和推進課、平和祈念資料館）のホームページを通じての情報発信を行い、平和祈念資料館に訪れる修学旅行生等に対して周知リーフレットを配布し、活用の促進を図った。 JICA研修生や、他事業「沖縄平和啓発プロモーション事業」で募集した「ぴーすふるメッセンジャー」向けの講義等で本コンテンツを紹介したり、本コンテンツについて問い合わせのあった新聞や教科書出版社等に、本コンテンツの紹介を掲載してもらうことにより、周知及び利用の促進を図った。 平成30年度に一時運用を休止した際には、速やかな公開継続を望む声が多く寄せられ、また委譲希望する団体等もみられないため、引き続き県による公開を行っていく。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・コンテンツのサーバーをクラウド化し、保守管理等の委託料コストが大幅に削減できたが、活用促進のための周知啓発を行う必要がある。

○外部環境の変化

・新型コロナウイルス感染症対策等により、インターネットを利用した平和学習などのコンテンツが注目されている。

・戦後75年が経過し、沖縄戦の体験の継承について、社会の関心が高まることが予想される。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・平和学習のコンテンツとして、教員や平和ガイド等向けに活用法等を周知することで、アクセス数向上が図られるものと考えられる。

4 取組の改善案 (Action)

・県のホームページ等を通して引き続き情報発信を行うとともに、関係機関と連携し、教員や平和ガイド等向けに活用法等を掲載したパンフレット等を配布し、アクセス数向上を図る。

・関係機関と連携を図ることで、国内外に本サイトの周知や利用を促進する。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	4-(2)-ウ	アジア・太平洋地域の安定と平和に資する平和人権協力外交の展開	施策	① 国内外に向けた平和の発信と次世代への継承
			施策の小項目名	—
主な取組	沖縄全戦没者の追悼			
対応する主な課題	②戦後72年が過ぎ、沖縄戦の悲惨な体験の記憶が薄れていくなかで、「命どう宝」の平和を希求する沖縄の心を次世代に継承し、どのように国内外に発信していくかが課題である。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
冷厳な歴史的事実にかんがみ、戦没者のみ霊を慰めるとともに、世界の恒久平和を願う沖縄の心を発信するため、沖縄全戦没者追悼式を開催する。						
		沖縄全戦没者追悼式を開催(「慰霊の日」6月23日)				
実施主体	県					
担当部課【連絡先】	子ども生活福祉部保護・援護課		【098-866-2428】			

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名									
主な財源	実施方法	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算見込額	R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画
							当初予算額	主な財源	
県単等	委託	15,034	15,740	15,120	15,498	14,850	16,193	県単等	OR2年度： 沖縄戦没者のみ霊を慰めるとともに、世界の恒久平和を願う沖縄の心を発信するため、6月23日の慰霊の日に沖縄全戦没者追悼式を開催した。 OR3年度： 沖縄戦没者のみ霊を慰めるとともに、世界の恒久平和を願う沖縄の心を発信するため、6月23日の慰霊の日に沖縄全戦没者追悼式を開催する。
予算事業名									
主な財源	実施方法	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算見込額	R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画
							当初予算額	主な財源	
									OR2年度： OR3年度：

様式1(主な取組)

活動指標名	沖縄全戦没者追悼式の開催				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	1	1	1	1	1	—	100.0%	14,850	順調	冷厳な歴史的事実にかんがみ、戦没者のみ霊を慰めるとともに、世界の恒久平和を願う沖縄の心を発信し、沖縄戦の歴史的教訓を正しく伝え、次世代の子どもたちに平和の尊さを継承するため、6月23日の慰霊の日に沖縄全戦没者追悼式を開催した。
活動指標名					R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
										新型コロナウイルスの感染拡大により規模を大幅に縮小しての式典開催となったが、御来賓、御遺族、地域代表、並びに県民代表などの参列及び終戦から75年目の節目の年として、広島市長、長崎市長、国連事務次長からのビデオメッセージをいただくことにより沖縄戦で犠牲となった御霊を慰めるとともに、NHKによる放送により、世界の恒久平和を願う沖縄の心を全国に発信した。
活動指標名					R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和2年度の取組改善案								反映状況		
<ul style="list-style-type: none"> ・動員職員への業務割り振りを円滑に行い、業務過多の箇所へは、さらに動員職員を増員する。 ・動員職員の増及びスムーズな入場を図った上で、参列者へ入場に時間がかかることへの周知を図り、理解と協力を求める。 ・シャトルバス乗降場の混雑解消のため、わかりやすい看板を設置する等の対応を行う。 								<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染拡大により規模を大幅に縮小しての式典開催となったため、動員職員を減員するとともに適切な人員配置により円滑に業務を実施した。 ・新型コロナウイルス感染対策として、入場の際に、検温、マスクの着用確認、手指のアルコール消毒を行う旨を参列者に事前に案内するとともに受付で丁寧な説明をすることにより、入場に時間がかかることへの周知を図り、理解と協力を求めた。 ・新型コロナウイルスの感染拡大により規模を大幅に縮小しての式典開催となったため、シャトルバスは運行しなかった。 		



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・新型コロナウイルスの感染拡大により、通常の式典開催は困難であることから、式典の規模に応じた動員職員の業務内容及び人員配置を適切に検討する必要がある。

○外部環境の変化

・多くの県民が来場した場合、新型コロナウイルスの感染拡大が懸念される。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・式典の規模に応じた動員職員の業務割り振り及び適切な人員配置を行い、業務を円滑に実施する。
- ・新型コロナウイルス感染対策として、入場の際に入場に時間がかかることへの周知を図り、参列者への理解と協力を求める。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大が懸念されることから、感染対策を徹底する必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

- ・式典の規模に応じた動員職員の業務割り振り及び適切な人員配置を行い、業務を円滑に実施する。
- ・新型コロナウイルス感染対策について、参列者に事前に案内するとともに受付で丁寧な説明をすることにより、入場に時間がかかることへの周知を図り、理解と協力を求める。
- ・新型コロナウイルス感染対策を徹底するとともに、注意喚起のため、わかりやすい看板を設置する等の対応を行う。

様式1(主な取組)

活動指標名	慰霊塔(碑)の今後のあり方検討				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
			調査実施	調査公表	調査実施	調査実施	100.0%	8,789	順調	平成30年度実施した調査で判明した管理者不明等の慰霊塔について、所在地自治会等周辺住民へのヒアリングにより意向を確認するとともに、意向を踏まえた慰霊塔の保存・移設・管理等の手法を収集した。
活動指標名					R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
										平成30年度実施した調査で判明した管理者不明慰霊塔60基、管理困難慰霊塔9基の慰霊塔について、所在自治地会等周辺住民にヒアリングを行うことによりその意向を確認することができた。また、管理困難であると要望のあった海外建立慰霊塔5基については、管理者に直接ヒアリングを行い、管理状況を確認することができた。
活動指標名					R2年度					この結果を踏まえ、撤去、移設等が必要と認められる慰霊塔管理者と意見交換を行っていく。
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和2年度の取組改善案						反映状況				
						<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度に管理困難慰霊塔検討事業を行った。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・「慰霊塔(碑)」は財産、建設物の一つであり、その維持管理等については本来
建立者の責任において行うべきものであるため、そのあり方については、建立者
等の意向を尊重する必要がある。

○外部環境の変化

・現在、各団体が建立した慰霊塔(碑)の中には、関係者の高齢化等に伴い、十
分管理がなされていない等の課題が顕在化している。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・管理困難慰霊塔検討事業を実施したところ、管理者不明等慰霊塔が所在する自治会等の周辺住民の意向の大半は現状維持であった。しかしながら、撤去・移設等
の意向がある慰霊塔もあったことから、それらの市町村と情報共有を行い意見交換する必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

- ・新たな振興計画における国への要請事項(慰霊塔管理者への交付金の創設、慰霊塔移設等補助金の拡充)の実現に向け、国と調整を行う。
- ・管理困難慰霊塔検討事業対慰霊塔が所在する市町村へ当該調査結果を提供し、移設等意向のあった慰霊等について意見交換を行う。

様式1(主な取組)

活動指標名	参加人数				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要				
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B							
	—	—	—	—	—	30	0.0%	0	未着手	<p>活動概要</p> <p>沖縄県内の小中学生及びその親（合計で30名）が対馬丸事件の生存者や犠牲者が流れ着いた鹿児島県大島郡宇検村を訪れ、対馬丸事件を学ぶと共に、同村の小中学生と交流する計画であったが、新型コロナウイルス感染感染拡大防止の観点から事業の執行を保留した。</p>				
活動指標名					R2年度									
実績値														
活動指標名					R2年度									
実績値														
活動指標名					R2年度									
実績値														
<p>(2)これまでの改善案の反映状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>令和2年度の取組改善案</th> <th>反映状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> 奄美大島の参加者（児童・生徒）を宇検村に限らず、周辺市町村である瀬戸内町と大和村に広げることで交流の規模を拡大する。 報告書の配布やパネル展の実施などにより、研修参加者だけの平和学習に留まらず、二次的な学習が可能となるよう事業広報の取組を実施する。 実施結果をまとめ、関係機関とノウハウや課題を継続的に共有し、より円滑な事業実施に努める。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染感染拡大防止の観点から、事業の執行を保留した。 </td> </tr> </tbody> </table>											令和2年度の取組改善案	反映状況	<ul style="list-style-type: none"> 奄美大島の参加者（児童・生徒）を宇検村に限らず、周辺市町村である瀬戸内町と大和村に広げることで交流の規模を拡大する。 報告書の配布やパネル展の実施などにより、研修参加者だけの平和学習に留まらず、二次的な学習が可能となるよう事業広報の取組を実施する。 実施結果をまとめ、関係機関とノウハウや課題を継続的に共有し、より円滑な事業実施に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染感染拡大防止の観点から、事業の執行を保留した。
令和2年度の取組改善案	反映状況													
<ul style="list-style-type: none"> 奄美大島の参加者（児童・生徒）を宇検村に限らず、周辺市町村である瀬戸内町と大和村に広げることで交流の規模を拡大する。 報告書の配布やパネル展の実施などにより、研修参加者だけの平和学習に留まらず、二次的な学習が可能となるよう事業広報の取組を実施する。 実施結果をまとめ、関係機関とノウハウや課題を継続的に共有し、より円滑な事業実施に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染感染拡大防止の観点から、事業の執行を保留した。 													



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、職員の県外への渡航・往来に制限が生じた。

○外部環境の変化

・新型コロナウイルス感染症が猛威振るい、緊急事態宣言が発出されるなど県外への渡航・往来に制限が生じた。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・オンライン交流の可能性を模索する。

4 取組の改善案 (Action)

・オンライン交流の可能性を模索する。